

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	せんだいしらゆりがくえんちゅうがく・こうとうがっこう				②所在都道府県	宮城県
27～31	①学校名	仙台白百合学園中学・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校 : 310名 高等学校 : 485名 (LI コース 336名、LS コース 80名、LE コース 69名) ④は特進コースからスタートし、指定後4年目から実施コースを増やし5年目で全校生徒実施	
普通科 (LS 特別進学コース)	30	25	25		80		
⑥研究開発構想名	白百合が開発するグローバル・サーバント・リーダープログラム						
⑦研究開発の概要	地球市民の育成を目指し環境問題を中心に探究活動を展開する本校の総合学習を、グローバル化の進展により社会から忘れられがちな人々への共感と他者に尽くす奉仕の心とその実践を根底に、主体的に行動できるグローバル・サーバント・リーダーへの育成プログラムへと伸長・発展させるため5つのテーマ(環境・食・医療福祉・教育・企業)で課題解決型探究活動を国内外で全員で実施する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現在の課題解決型探究活動と連動する学習プログラムに、1893年の創立以来、修道女達によって受け継がれてきたその活動と精神(社会から忘れられがちな人々への共感・他者に尽くす奉仕の心とその実践)を根底に『人を支え、人を活かし、人をつなげる』グローバルサーバントリーダー(GSL)に成長させるべく以下の4点を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自国文化と異文化の理解と共感・グローバルな視野を育成する【意識・知識・理解】</li> <li>◆異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協働する力を育成する【技能・スキル】</li> <li>◆地球の一員として、問題解決のために地域から社会に働きかける行動力を育成する【態度・姿勢・価値観】</li> <li>◆国内外のGSL及び、奉仕の精神を持って生きる人々の信念と活動から、自己を他者のために活かそうとする力を育成する【精神・表現・思考】</li> </ul> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は建学以来、宗教福祉教育・国際教育・英語教育の充実を図り、コース制の導入により一定の結果を輩出してきたが、近年、生徒自ら主体的に学ぶ意欲を育てることや、社会環境の急速なグローバル化に対応する理念・スキル・学び・発信を強化する部分に遅れが目立ち、いつしか生徒の弱点にもなっている現状。この現状打破のために以下の仮説を立てた。</p> <p>仮説1) 本校が育成したいリーダー像を明確にすることによって、建学の精神を再認識し、これまで行ってきたグローバルな視点を育む教育活動の活性化ができる。</p> <p>仮説2) 総合的な学習の中で展開される5つのテーマに基づく探究活動と、各教科で展開されるアクティブラーニングが結びつくことで、主体的な学びが実現し、協働する力、他者と対話する力が飛躍的に向上する</p> <p>仮説3) 台湾における探究活動型海外研修や校内外での研究成果発表会、大学との連携等に取り組みせることで、自ら発信する力と行動する力が向上する</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆開発プログラムの成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果発表会を実施・研究成果報告書の作成・HPに定期的に研究報告発表</li> <li>・姉妹校へのプログラム普及に関する研修会の実施・学校説明会等での発表</li> </ul> </li> <li>◆生徒の課題解決型探究活動の成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内発表・学園祭における発表・研究成果発表会での発表・他SGH校との合同発表</li> <li>・国内外の連携高校、大学、研究機関での成果発表・国際機関、国際会議等での発表</li> <li>・高校生女性フォーラムの開催(最終目標)</li> </ul> </li> </ul>					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 GSL の育成のため、5 つのテーマ『環境・食・医療福祉・教育・企業』を設定。それぞれに『先進国の飽食と途上国の飢餓』、『食の安全と農薬』、『高齢化社会における看護師の資質』、『女性と子どもの教育支援』、『企業のアジア進出における課題の解決』等々の探究課題を設定し、連携大学・研究室・企業等の指導の下、GSL の視点を持って解決に向けた研究を国内外で全員で展開する。</p> <p>(2) 実施方法 生徒が真の GSL に成長出来るよう、1 年目は国内を中心に 5 つのテーマ（環境・企業・食・医療福祉・教育）で高大連携、企業との協力のもと、<b>問題意識の育成と共有、論理的な思考力の育成、継続的な協働による探究活動と学びの構築、実践的なコミュニケーション力を育成する。リーダー学の基本概念を養成し、奉仕の精神で活躍する女性たちについての見識を深め、サーバント・リーダーとしての覚醒</b>を図る。教科においては<b>アクティブラーニングを導入し、学びの喜びを理解しつつ、英語の 4 技能の基盤を築く</b>。2 年目は先輩力を活用しながら<b>全員による海外(台湾)での探究活動を実施</b>。課題の再考と解決策への模索を展開。実践的な英語力を武器にプレゼンテーションスキルをアップさせる。<b>リーダー学の神髄に触れつつ、奉仕の精神を生きる女性と接し、サーバント・リーダーとしての自覚を促す</b>。教科においてはアクティブラーニングによる学びの探究を深めさせ、英語の 4 技能の更なる育成に力を注ぐ。3 年次は共生の社会の実現に向けて、1, 2 年次の基礎的な学びと探究活動を基に、<b>課題解決策の実践に向けた行動力と表現力、発信力を高める。奉仕の精神を生きる女性と共に行動</b>しつつ、各種大会の出場と WEB によるアクションプランの発信、<b>集大成としての『高校生女性フォーラム』の実施</b>。社会とダイレクトにつながる <b>GSL としての完成</b>をみる。</p> <p>検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントを基に意識・姿勢・態度を定期的なセルフチェックで評価</li> <li>・講演、研究施設等での研修における研修レポート及び課題解決のための企画力・発信力等のレポート、プレゼンテーションで評価（自己・教員・外部講師・アンケート）</li> <li>・自身のキャリアデザイン（進路志望等）及び語学系資格取得の状況を検証</li> </ul> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>《取組・内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究を深めるための金融経済学と和食文化の学習</li> <li>・台湾の歴史と現状及び日本・中国・台湾の関係を理解する取組</li> <li>・修道女たちとの連携及びサーバント・リーダーを理解する取組</li> <li>・論文作成の方法と英語による PPT の作成方法に関する指導</li> <li>・英語によるコミュニケーション能力の向上及び中国語の習得に関する取組</li> </ul> <p>《期待される成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策・アクションプランを導く場合の有効な手立てとなる他、日本人としてのアイデンティティの確立につながる。国内外の他者と協働する上での連帯の強化と充実につながり、より一層課題解決に向かう思考の流れが強靱なものとなる。</li> <li>・情報の収集と活用、論理的思考による提示内容の工夫と表現の充実は、主体性を増し、学びの幅を広げることを可能にする。</li> <li>・精神と行動の一致を導き、多様な価値観を理解し、コミュニケーション能力の向上につながる。</li> <li>・英語の 4 技能の能力を向上することで、論理的に他者に物事を伝えることができ、相手の意見や時代の世論を背景に、対話を通して合意を形成できる力を育成できる。</li> </ul> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントによる定期的なセルフチェックと行動・発信部分での第三者による評価</li> </ul> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後のグローバルカフェの実施により、宮城大学等の外国人留学生との交流場所を提供する。</li> <li>・同窓会に働きかけ、GSL 育成資金の援助を企画する。 (在校生・卒業生の海外留学(長期留学 or 進学)の場合の給付型奨学金等)</li> </ul>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語力の向上のため、高校時におけるデュアルディグリーのシステムを導入し、海外の大学へ進学を希望する生徒に対する支援の在り方や校内指導体制の研究を進める。</li> <li>・海外研修を全員で実施する中で、シャルトル聖パウロ修道女会の世界的なつながりとその背景、現在の活動の様子を姉妹校へ定期的に動画による配信を実施。</li> <li>・20 人の GSL を選定し学習教材及びパンフレット(日本語・英語・中国語)を開発。</li> <li>・中国語の学習環境を整え、時代にふさわしい人材を育成する。</li> </ul>

ふりがな	がっこうほうじんしらゆりがくえん せんだいしらゆりがくえんちゅうがく・こうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	学校法人白百合学園 仙台白百合学園中学・高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	318人
	SGH対象生徒以外:		245人	242人	人	人	人	117人
H25・26はボランティア経験のアンケートの数値。グローバル・サーバント・リーダーの資質を育成し始めれば5年後の対象生徒455人の7割は取り組み対象外生徒195人の6割は取り組む								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	145人
	SGH対象生徒以外:		105人	71人	人	人	人	58人
各研修現在参加数の55%（ポーランド13フィリピン8台湾7英10）、留学35(27は留学コース)、SGH研修海外(91班の8割72)、対象外生徒の3割は取り組む								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:			66%	%	%	%	80%
海外での探究活動を実践している人数が多いので、キャリアを形成する素地ができているため								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:		4人	3人	人	人	人	5人
対象生徒455人で5人の班が91班、そのうち有用性の高い解決策の提示に至るのが30%、対象外195人の3%								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:		%	25%	%	%	%	36%
現在の特進科の所持率は44%なので20%の増を見込む。対象外は現在18%の所持率なので36%を見込む								
米国の高卒資格を有する者								
f	SGH対象生徒:							25人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				0人
指定4年目で受講者を全体の5%と考え、5年目は6%、受講のバックアップと補習指導の強化で見込む								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
--	------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	19%	23%	%	%	%	%	%	

32年度より全員がSGH対象となる。現在17大学の選択を1.8倍の30大学に広げる。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	9人	9人	人	人	人	人	人	

デュアルディグリープログラムと中国語学習講座の導入と過去の実績により算出。

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	85%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	

5つのテーマによる探究活動はそれぞれが更に多くの関係性を内包しており、キャリアの形成に大きな役割を果たすため

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	68人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	

大学に進学している卒業生65%の聞き取り調査から現在18.5%が経験者。その数値から算出。

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: SGH対象生徒総数455人のうち、LS海外研修必修30×3学年=90人、他希望者が60人として算出								
課題研究に関する国内の研修参加数								
b	人	0人	人	人	人	人	人	455人
目標設定の考え方: 国内探究活動は継続して全員で実施している。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	12校
目標設定の考え方: 5つのテーマの融合も考えられるので、連携先は最初の5校から広がると予測								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	0人	人	人	人	人	人	150人
本校から進学している20名の先輩たちと各大学の研究者及びアシスタントの人数と平均5回のコンタクトで算出								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 国内外約5社と国際機関約5団体、各関係者2名及びコンタクト5回として算出								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	15人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 5グループのうち、有用性の高い解決策を導ける割合は40%10名、全体90人でフォーラムを実施								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	1人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 語学力の高まった生徒の人数も増えるし、教員の視野も広がっていくのでより受け入れやすい方向になる								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	年2回
目標設定の考え方: 11月の中間報告及び2月のシンポジウム・東北女性フォーラムの開催								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 指定3年目には開設できるよう、情報科と共にシステムの変更を促す								
(その他本構想における取組の具体的指標) 中国語に取り組む生徒数								
j	11人	9人						25人
目標設定の考え方: 今まで外部の語学教室に通っていた生徒が、本校を活用することができ、学習時間は大学進学に使用できるため								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	498	485	465	0	0	0	0
SGH対象生徒数			30				
SGH対象外生徒数			435				